

～麻美と努 音のスケッチ～

響きの交差点(Jazz × Classic × Pops)

at Jazz & Gallery Minority

小野麻美(Piano)・武井努(Sax)

2025.07.05

小野麻美・武井努という
音楽人生の背景が違う2人の音楽家が、どう出会い、どんな風に演奏して
2人でしか生まれない音をスケッチしているのか紐解いてみましょう

1) 自己紹介1：小野麻美

- ・ クラシック出身からジャズへ
- ・ オリジナル曲「やみ」「空の景色」など誕生エピソード

2) 自己紹介2：武井努

- ・ サックスとの出会い、ジャズとの出会いは偶然だった
- ・ 音楽家への転身
- ・ 曲作りにこだわる訳とは

3) お互いの印象

- ・ 初めての演奏からやがてデュオ演奏に
- ・ 相手の演奏や人柄にどういう印象がある？

4) ジャズの成り立ち

- ・ ジャズが生まれた背景とは
- ・ ジャズの演奏の面白さとは
- ・ どういう風に演奏している？どんなルール？
- ・ 即興演奏（アドリブ）のやり方
- ・ 制約からの解放

5) 2人のオリジナル曲を楽しもう！

演奏予定曲：Super ネコの日、カメハメカナメくん、himawari、フィルム

- ・ この曲はどんな風にイメージしてる？
- ・ 実際演奏してどう思った？

小野麻美 音楽と人生の年表(1997～2025 改訂版)

- 3才～ クラシックピアノを始める。
小学校の卒業文集に「ピアニストになる」と書き残す。
- 中学時代 合唱部に所属
NHK コンクールに毎年出場。ピアノ伴奏で賞を受賞。
- 高校時代 京都・華頂女子高校 音楽科ピアノ専攻
クラシックとアンサンブル中心に、毎日4～5時間ピアノ漬け。
4教科以外は苦手(笑)
- 1997 相愛音楽大学に入学
心身のバランスを崩し退学を決意。
- 1998 やみ 作曲
孤独と不安の中、心の影を音に表した作品。
- 2001 feeling of the deep blue 作曲
NYのジャズクラブでの衝撃体験をきっかけに誕生した初オリジナル曲。
- 2008 花火 作曲
一瞬の輝きとその余韻を描いた、夏の夜の情景。
- 2010.4.3 チロロが虹の橋を渡る
すぐにご縁があり、2代目 空(そら)がやってくる。
- 2012 秋 最愛の父との別れ
一番の音楽理解者だった父の逝去。
- 2013 アルバム『Deep blue』リリース。初のピアノトリオ作品。
- 2017 アルバム『yellow』リリース。光や優しさをテーマにした2作目。
- 2018 常滑市 Minority に小野麻美ピアノトリオとして出演。
- 2019 『青い影』リリース(信州 Jazz 民 上)
ソロピアノ中心。feeling of the deep blue、K train、momiji など全16曲収録。

- 2020 アルバム『Orange』リリース。ピアノとドラムによるデュオ作品。
- 2022.2.22 Super ネコの日 作曲
猫たちの自由な日常を描く、にゃんにゃんにゃんの日生まれ。
- 2023～ カメハメカナメくん / 猫のスーちゃん 他家族や動物をテーマにした
温かいオリジナル作品群。
- 2024.8.18 初の“犬と猫”ライブ開催。Jazz & Gallery Minority にて武井努氏との共演。
- 2024.11.11 『dog & cat Jazz duo』リリース
犬と猫をモチーフにした心なごむジャズデュオ。
- 2025.2.22 リリース記念ライブ開催
『dog & cat Jazz duo』記念イベント

空の景色 / Sky's Reflections

【歌詞(日本語)】

空の景色(作詞・作曲:小野麻美)

移りゆく雲のように、
心の景色も変わるよね、
そして、時は過ぎてくのよ、
そう私、変わっていくの。

なんだか嫌な予感がする、
見上げたほほに、
大粒の涙が落ちてきた。。。。

泣いてるの...?かって、
心配そうに、うかがう君の顔は
太陽のように あたたかいね。

楽しいこと、辛いこと、たくさんあった。
どれもこれも、忘れたくない。

忘れたいことってたくさんあるけれど、ど
れもこれも 自分自身なの。

一緒に居た時間、
今までずっと 見上げてては、
勇気をもらい。
これからも ずっと....。

忘れたいことってたくさんあるけれど、
時が経てば 良いことだって言うけれど、そ
んな簡単なのかな.....
上手くいくのかな.....

移りゆく空の色.....

2人の、空の景色.....。

【制作エピソード】

この曲は、私のピアノ部屋の窓から見える空の色が、ゆっくりと移りゆく様子を眺めながら生まれました。作ったのは、少し心細く、寂しさを抱えていた頃。将来への不安に包まれながらも、目の前のピアノが、静かに私を救ってくれました。

そのとき、家族も犬も、誰一人として私を責めることなく、ただそっと見守ってくれていたこと—その環境があったからこそ、私は音楽の世界に身を委ねることができました。

今思えば、あの時間に感謝しかありません。

この曲には、そんな「空」と「心の色」がそのまま流れ込んでいます。